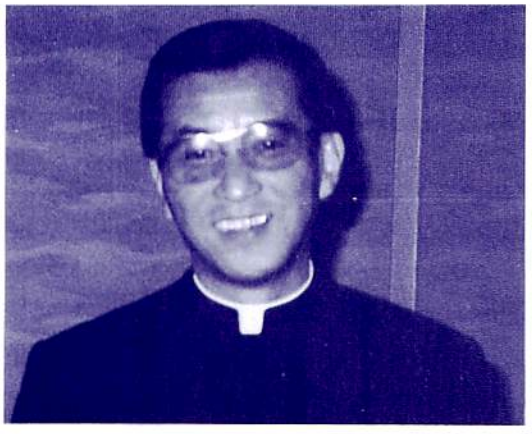
京都教区時報

第129号
田中司教認可
毎月1日発行

発行　京都司教区　発行責任者　村上透磨
編集　京都カトリック教理センター　住所　京都市左京区仁王門通新高倉東入　Tel 761-9095

ナイスを探る・宣教司牧評議会報告

あけましておめでとうございます



50周年 ナイスが私たちの新しい出発点

京都教区司教　ライムンド田中健一

１９８８年の新春にあたり、教区内の信仰の仲間である皆さん一人ひとりにご挨拶を申し上げ、神からの豊かな恵みと必要な力と祝福を心からお祈り申し上げます。

昨年は当教区にとりまして意義深い、恵みの年だったと思います。「民の声は神の声」とその線に沿って2年間に及んで取り組んで下さった「対話と刷新」を理念とした教区創立50周年。そして第1回福音宣教推進全国会議（ナイス・Ⅰ）が京都で開催された事。この時の貴重な司教団への答申は12月中旬の司教協臨時総会で慎重に受けとめられ、祈りのうちに分析・検討され、各教区の特性や事情に幅を委ねながらも日本の教会としての優先課題が煮つめられるものと思います。

過去の小さい経験からしても、思い出す7年前の教区ビジョン作り、FABC（アジア司教協連盟）やシノドス（世界司教代表者会議）の歩み等が、本質においては結ばれており、私共教区共同体は荒野の道を主と共に歩まされている実感を肌で感じました。

日本の他宗にあっても、21世紀に向う宗教者の使命が意識され始めているようです。私共、復活キリストに帰依の信仰を頂いているものとして、曲りなりにも普遍共同体の一員だけに、日本における人数は少なくても使命は重いものだと思います。

50周年・ナイスⅠが私共の新しい出発点であります。この機会に示して下さった皆さまの熱意と意識と行動の盛り上がり（特に青年のみなさんの）に心から感謝すると共に、今年はもっときびしい道かも知りませんが、生活に結ばれた霊性をも特に大切にしながら、「私が愛したように互いに愛し合いなさい」との使命を少しでも開花させて頂けるよう、聖マリア、京の聖ラザロに取り次ぎをも捧げましょう。

第1回福音宣教推進全国会議（ナイス）を探る
会議の過程と答申案ができるまで

第1回福音宣教推進全国会議（以下ナイスと呼びます）が終った。教区として開催地として準備や当日の会議運営の裏方として、委員の方々は勿論、信徒、修道女、司祭が挙げて協力した結果、ここに無事、成功裏に終った事を、互いに感謝し合いたいものである。大会に参加した代表者の人々は皆、京都教区の熱意あふれた支援に対し心から感謝して帰って行かれた。

婦人、壮年、修道女の方々の協力はすばらしいものがあったが、特に青年の盛り上りが一つの喜ばしいしるしであった様に思う。

代表者の中に青年の参加が少く、何とかして参加してほしいとの願いが、青年書記団の参加で、110名の予定が実際には160名にもふくれ上り、ある分団では、書記としてだけでなく、仲間として意見を聞かれて嬉しかったと言う報告もあった。もう一つは最終日の青年のミサであろう。典礼文の作成、手づくりの祭壇、ミサ、それが北部の青年を中心に、青年達の手で作られた。

地下の青年達のミサは熱気と感動にあふれていた。その感動が新しい息吹と力の原動力となる事を期待する。この事は又別の報告があろうと思うのでこの辺で……。

ともかく青年の積極的参加の場を与えようといろいろ工夫した事を付言しておきたい。典礼の役割分担にもそれをこころがけた。

答申案ができるまで

さて、本会議で話し合われた事をまとめて答申として司教団に提出したが、これに関わったものとして、それがどの様に変って行ったかを報告するのが一つの義務ではないかと思い、その経過を報告させていただく事にする。

しかしその前にそこに至った経過を資料の面からごく簡単に説明させていただく。

1公聴会記録（1986年7月6日）
これは'86年2月から4月まで開かれた4つの公聴会記録

（'87年1月30日発行）

2課題各教区案（'86年11月15日）
これは公聴会記録に基いて16教区が10課題ずつ提出した報告書。

3ナイスの課題（'86年12月12日）
これを司教団は先の160の課題から3柱9要点を軸として「開かれた教会づくり」と言う課題を選び討議する様みなに要請した。

4各教区中間報告ⅠⅡ（'87年9月）
これは9要点について各教区で代表者達がまとめたものの報告書である。

ちなみに京都について言えば、225グループからの話し合いを代表者は整理し、それを「まとめ」そのまとめを中間報告書として送った。

各代表者はこの中間報告書を研究して会議に臨んだ。

5初日開会式において

相馬司教の基調講演に続き、信仰と生活、教会と社会についての4教区の発題（京都は二条氏が行った）があり、岡田師が共通理解を求めてという題でまとめを行った（福音宣教12月参照）

翌日からは各柱につき発題、分団会、報告の順で討議を進めた。

（尚、そのプログラムについては時報前号2～3ページ参照）

6分団会から第1の草案まで

分団会の討議は各分団3つずつを優先課題とし、それに貴重な少数意見を加え、45課題に加えかなりの数の提案がなされた。

実行委員会は3つの柱の担当者を28ずつに分けそれに森司教、岡田、岩橋、松本三の4師が加わって、6名ずつの分担で読み込みをはじめた。

越知師と村上は第1の柱のまとめを分担する事になり、まず2人で読み込みを開始し、共通意見等を組み上げた結果、提案理由と、内容のまとめを手分けして考え、それを合わせて一つにまとめ、それを6人で見ると言う作業をくり返しながら、第1草案を夜の実行委員会に提出、そこで討議されたものを書き直し中間報告書を作成した。

7中間報告と提案（22日午後）

これは発表だけにとどめ、意見は紙面でと言う事になった。

ここでもっとも強い反対意見は、実行委員会が勇み足をしていると言う事であった。

8答申案発表（23日朝）

再び答申案の一部修正が要求されこれを実行委員会が修正したものを答申として出す事に決定。

以上が第1の柱の答申が出来るまでの課題である。

第1の柱がはじめであったために一番討議され、草案も多く出たが、他の柱の答申案の作成の課程もそれに準ずるものであった。

（もっとも時間の関係であとの柱になる程一つずつ草案が少なくなると言う運命を受けはしたが）

ここで草案作成委員の一人として私達は悲鳴をあげたくなる。

あーだんだん小さくなる！
あー手足がもぎとられていく!!

これが具体化の段階に至ってますます致命傷を負わせる様な死刑宣告にならない様に願っている。

だが名医がいる。司教様方、きっとよみがえらせてくださる!!

さて少なくとも第1の柱について答申案が出来るまでの過程を報告したい。それは答申の奥にあるものをみなさんに読んでいただきたいからである（しかしこれも紙面の関係上次号おくりになる）

そのためには、第1草案が出来る直接の資料となった分団会報告、更にさかのぼって「各教区の中間報告」までも紹介すべきであろうし、それらを見てはじめて、答申案に対してなされた「実行委員の作文」と言う批判が当っていない事に気付いていただけると思うが、それが膨大なものになるためここに報告出来ない事が残念である。

いずれこれらの資料すべてまとめて公表される機会もあろうかと期待している。

「宣言」青年も独自に

宣言文について一言のべておきたい。これが決意文なのか、祈願文なのか、或いは具体的な指針をもり込んだまとめの様なものなのか、22日の懇親会が終り10時すぎに始った実行委員会において激論がたたかわされた結果「宣言」として出す事を決定。答申案も含めての討議であったが終ったのは3時頃でなかったかと記憶している。このまとめが出来たのが5時すぎ。

宣言はナイスの閉会式、記念ミサの説教のあと会員で唱えた。その文章は12月6日付けのカトリック新聞にも記載されている。

次に青年も独自のものを作った。これは当初、予測しなかったものであったが、参加した青年達が自発的にこれも夜遅くまでかかって作りあげたものであった。これは参加者にとって大きな喜びだった。これもやはり12月6日付け3ページに記載されている。

こうして新しい息吹が生れ、新しい第一歩を歩み出そうと見がまえている。何時号令がかかるのだろう。いやそれを待ってばかりいる必要はない。出来るところからはじめたらよいのです。

そのためには報告会等、どんどんして、具体的な取組みをはじめる準備にとりかからねばなりません。時報もその事を考えて、出来るだけ早く特集号を出すつもりでいます。カトリック新聞11月29日号から少しずつ出はじめていますが、紙面の都合と言う事もあり、又公的機関紙と言う事もあって、慎重さが必要なのでしょう。不十分とは言え、かなりの内容が報告されております。その点からでも話し合いをはじめるべきだと思います。

ナイスは目的地でなく、旅の出発点です。丁度結婚式みたいなものです。新しい人生の出発点、ナイスも日本の教会の生活史の出発点。あるいは洗礼とみなしてもよいし、聖霊降臨とみなしてもよいと思います。

さあ飛び出そう　扉を開いて!!

文責　村上透磨

会議の模様、答申案については更にさらに詳しく特別号で報告します。

京都教区創立50周年記念とともに

西野猛生

「京都教区ビジョン」と日本司教団の「基本方針と優先課題」を出発点として、「京都教区創立50周年記念」の各委員会が発足したのは、約2年前でした。(因みに、教区ビジョンの出発点は「第二バチカン公会議」と日本司教団の「社会に福音を」でした)。その教区ビジョン本文のはじめには次のような言葉があります。

『教会は「社会とともに歩むもの」と、私たちは考えます。かつて、教会は世俗社会とは、全く対立するもの、と考えられたことがありました。しかし、人々の生きている場こそ、この社会であり、教会はこの社会のただ中にあります。

私たちは、この社会のあり方に迎合するのではなく、社会の中、人々の中にある福音的なものを、キリストのメッセージ、みことばの種として受け入れ、それに協力すること。その反面、社会の中にある非人間的なもの、福音の精神に反するものに対しては、はっきり声をあげ、賢明にこれを糺すことが必要であるといえるでしょう。

そして社会の必要としていることに耳を傾け、福音の精神をもって、これにこたえていきましょう』。

そして、それに基いて、1、社会との関わり、2、教会の自己刷新(含・対話における自己刷新)、3、信徒自身の自己刷新と続きます。

京都教区創立50周年記念と第一回福音宣教推進全国会議(NICE)とが、並行して準備され、実施されましたが、全国会議が教区ビジョンの延長線上にあることを知っている私たちにとっては、大きな励みとなり、喜びとなりました。

教区創立50周年記念のテーマ「京都教区の50年の歩みを見直し、対話と刷新に向けて」も、やはりこの教区ビジョンが土台になっています。従って、行事も〝お祭り〟的なものではなく、むしろこれからの再出発を目指して、意味あるものにすることを念頭に置いて取り組んで来ましたし、記念誌の編集も、過去を振り返るだけに終わらず、今後それぞれの小教区や各グループに、教会の将来に向けての話合いや活動のための資料を提供する目的でなされて来ました。また、資料収集も、同じく「過去を振り返ることは、将来に向けて責任をもつこと」を大切にしながら、その努力を重ねて来ました。

各委員会の委員は、しばしば集まり、検討し、またそれぞれの地区に持ち帰り、努力を重ねて来ましたが、力量不足で、その目的に達しなかった部分が多々あります。しかしこれから各小教区が、また各グループが、その目的に向かってそれぞれ努力して、更に深めて下さると信じています。

この50周年記念と全国会議を通して、生れて来た大きな喜びは、教会の、そして社会の将来を担う青年たちの活躍です。若者のこの力が、からし種のように、是非とも大きくなっていってもらいたいと念じています。

各委員会の反省から出て来たことですが、

◎資料収集委員会からは、各小教区などの歴史の記録を整備・保存していただければということ、

◎また記念誌委員会からは、記念誌「扉をひらいて」を、小教区などでの勉強会や会議などで活用していただければということ、

◎そして行事委員会からは、各小教区などで行なわれている行事の見直しをしていただければということを、お願いしたいと思います。また12月5・6日の宣教司牧評議会へ各委員会からいくつかの提案をしました。宣教司牧評議会からの報告が「教区時報」などを通してあると思います。

語って下さい

パン我

愛がふくらむ

「七五三に儀式、死者の日をお盆に」「離婚者に軟化」の各社の新聞記事を読んで

磯野真知子

第1回福音宣教推進全国会議の各社の新聞記事をみなさん読まれましたか。いろいろ意見、感想を持たれたことだと思います。私たちはこの各社の記事から学ぶところがあるのではないでしょうか。それはカトリックに対する世間の人々のイメージが、戒律のきびしい、西洋の宗教と思われているところがあるからではないでしょうか。ですから今回の記事のように、「七五三、死者の日をお盆に」あるいは「離婚者の軟化」というような、土着化の問題のみを取り上げて記事を書かれたのではないでしょうか。

たしかに一方でこのような土着化の問題は大事なことかもしれませんが教会から一歩離れたところではこうしたイメージを持たれているということを受けとめると同時に、今回の全国会議が、日本の風習に歩みより、戒律を緩めカトリック信者がどうしたら増えるかということでなく、信仰と生活あるいは社会と教会が共にあるべきなのに分離している現状を見つめ、見直し話し合っていたということを再確認していただきたいと思います。ですから、各新聞社が取り上げていた、「七五三、死者の日をお盆に」とか「離婚者に軟化」というのは、この遊離の現状をどのようにしていくかという時の手段であって、全国会議が具体的に目指していたのは、教会が社会の中にあるということを私たち一人ひとりが見つめなおすことだったと思います。

私たちが今、何を反省し、これからやっていくのか話し合った全国会議の答申案はただ信者数の問題や土着化の問題だけでは決してないということをしっかり心に留めたいと思います。

全国会議の詳しいことはこの後の特別号をお読みいただきたいと思います。

聖書週間　みことばによる喜びの輪

大人25点、子供88点と今年も多くの作品がよせられ、応募して下さる方々の意気込みを感じました。

また、今年は大島重良氏の「イコン」と藤本忠次郎氏の「聖徳太子像」の参加もあり、「例年にないみことば書道展ができ、大変良かった」という感想を聞くことができました。

生活の中で本当に生かされているみことば。また来年も、多くの作品を、気軽に出品して下さい。

イコンと聖徳太子像、書道展をもり上げました

今年も力作ぞろいでした

宣教司牧評議会報告

50周年行事各委員会からの提案と全国会議の報告

'87年12月5・6日

報告事項

次期評議員について

各組織に推薦を依頼中。決定しだい時報でお知らせする。

教区創立50周年記念事業について報告。次のことが各委員会から提案がありました。

行事委員会

●青年たちの育成、協力態勢

●教区創立50周年記念基金の設置（アジアの教会との交流基金）

●カトリック何でも相談室の設置

●アンケートの活用

資料収集委員会

●京都教区に関する資料及び古文書、小教区、施設、修道会からの資料及び古文書を収集し、保存するため、教区は新たに資料収集委員会を設置すること。

記念誌委員会

●「なんでも相談室」を教区に設置する。

●記念誌のアンケートを見て、実態が浮き彫りにされたので、宣教司牧評議会で検討してほしい。

〈青年の声（青年活性化の声）〉

●青年の意見や企画について、受け入れるおおらかさと、励ましを望む。

●青年に一方的に役割を押付けず自主性を尊重し共に考え、企画し、役割分担をする姿勢が望まれる。

●青年の交流の場、青年センターの設置。

★50周年記念事業委員会からの提案については次期評議会に申し送る。なお出された提案の詳細は、教区事務所にお問合せ下さい。

実行委員会

●記念誌が足りないという不満があったが、委員会は教区事務所にお願いして、各小教区に必要部数の申告をお願いした結果の部数である。（少し余分があるので欲しい人は教区事務所へ申し込んでください。追加分については実費にする。）

●会計報告（中間報告）

協力金8,804,882円（11月30日現在）

支出概算

記念誌　約6,500,000円

諸費　2,542,966円

11月23日の献金

722,936円（アジアの教会との交流基金（仮称））

★会計報告についてはもう一度、最終報告が出しだい詳しいことは報告します。

第1回福音宣教推進全国会議について

代表者の今後について

新年早々に集まり、解散をしようと思っているが、これからどのように引継いでいくか検討したい。

会場準備委員会

4日間各ブロックからの協力を得て、大過なく終えることができた。昨年9月に準備会を結成し、10月から十数回会議を行った。できるだけ「貧しさの分かち合い」ということを考慮しながら、原々案を参考に始めた。結局修道女を除いてロイヤルホテルに宿泊することになった。予算もどんどんふくれ上っていった。宿泊、食事、会場、道具など役割分担を行った。22日の懇親会は書記団にゆずり会場準備委員会の人々は遠慮した。

青年書記団

ナイス代表者の中に青年の参加が少なかったため、青年も参加の場をということで青年書記団の結成がなされた。大阪、京都教区を中心に、また修練女あわせて130名が集まった。

―結成までの経過

6月27日　司牧評議会で決定

7月6日　呼びかけ開始

7月31～8月1日　教区青年の集い

10月31～11月1日　書記団合宿

11月15日　奈良、大阪で説明会

1月10日　青年の感謝の集い

青年代表が少ないことからこの書記団が結成されたが、この機会に教会の方向をつかんでほしい。また青年のネットワーク作りをしたい。

4日間よくやった。会計報告は後程行う。また現在感想文を作成中である。（掲載は時報特別号で）自分たちもこういうテーマで話し合ってみたい。青年ナイスまたは青年大会のようなものを開きたいなど大阪、京都教区を中心にその気運、つながりが高まっている。

中央実行委員会

中央実行委員会の動きについて

は時報特別号で記載の予定。

その他

ビデオは目下編集中、できたら各教区へ送りたい。費用はナイスの方は中央で、ミサ約18万円は教区で負担することになっている。

平和の歩みについて

平和の歩みの各ブロックの報告につきましては時報127号（P4・5）をご覧下さい。

50周年、ナイスの年だが絶やさず重荷にならないように心がけた。各ブロックの企画を求め、各ブロックの計画書がポスターに発表された。

報告書から感じることは

●教会の内部でも、コンセンサスが起こらないテーマがあることが多い。

●今までテーマとして起きてこないものが、取り上げられたことを評価する。

●例年では500名、今年は1000名位の参加があり、参加が増えたようである。

1月30日～31日宣教司牧評議会を開く。なお、この評議会から新評議員になります。

審議事項

'88年度教区宣教活動補助金の審査について

申請用紙の発送が遅れたため、申請書がでていなかったので審査ができなかった。

1月12日に審査委員会を開いて審査し、評議会で承認する。

宣教司牧評議会事務局規約及び内規について討議した。

アジアの教会との交流基金（仮称）について

活発な討議の後10月6日の答申を確認する。

●基金制度を設立することについては決定した。

●運営、名称等については未決。

●11月15日の献金については次期尚早として今年は取り止め継続審議。

●11月23日の献金については上記基金の準備金として入れる。（722,936円集った）

結論として

●趣旨を徹底させる。

●答申の2、名称・管理・運営を具体化するために。設立準備委員会を作る。

そこではみんなの意見を汲み上げること。

また、他の既存の基金制度の資料を集め、それも参考にたたき台を作る。

●設立準備委員会を作ることは次期司牧評議会に申し送る。

教区の優先課題（3項目）について（時報123号P2参照）

6月27～28日　宣教司牧評議会議事録及び資料

9月18日　常任委員会議事録

これはビジョン以後の見直しとして、今、信徒が「かかえている具体的な問題」を集め、まとめた結果、優先課題として選んだものである。それは

適正配置の問題

青年信徒の問題

パイプのつまりの問題

の3つの問題である。

以上のことから考えて

現段階で、もはやなぜ適正配置か、なぜ青年信徒のことが問題になるのか、なぜパイプのつまりが問題になるかは、一応終えたこととして、いかにこれを浸透させ、具体化するかが今回からの問題となるはずであった。

しかし、評議員自身の中でこのことが十分消化されていないようにも見受けられる。

結果的には、適正配置の問題が中心に話し合われ、青少年、パイプのつまり問題については討議する時間がなかった。しかしこの2つの問題は適正配置の問題の討議の中にも現れた。

ナイスからでてくる課題との調整

この3つの課題は、ビジョンの見直しから生まれたものでありビジョンとナイスは同一線で結ばれている。

ナイスから予測される課題とこの3つの課題はなんら矛盾することなく、むしろナイスの課題の具体化として受け止められるであろう。ナイスからでる司教団の課題について、あまり気にすることなくすすめる。この問題は次回評議会へ。

ナイスの後を受けて（代表者の役割と司牧評議会の関係）

●具体化は司教会議をうけて実践

●代表者の今後の役割はナイスをもって終るが代表者としてナイスの報告と浸透させる任務がある。

司牧評議会として右記のことよろしくお願いする。

お知らせ

教区スケジュール

1月
4日　司祭、修道士懇親会
10日(日)教区青年の集い(ナイス書記団)
15日　ノートルダム地区総会
15・16日吉田清治さん証言会(カトリック会館6階ホール)
22日　SVP理事会
24日　聖体奉仕者研修会(田辺教会)
25日　KCC新年会
30～31日　宣教司牧評議会

吉田清治さんの証言を聞く会

吉田さんは、日本による朝鮮半島植民地支配時代に、多くの朝鮮人を日本に強制連行した人です。

戦後、自分の行いを悔いて、歴史の事実を後世に伝えるために各地で講演をして下さっています。

アジア諸国に対する侵略戦争を遂行するための労働力として、想像を絶するひどい手段で朝鮮人が「狩り集め」られて、日本へ強制連行されました。そして、軍需工場や炭鉱で過酷な労働に従事させられたり、戦場での飛行場作りに送られて「玉砕」させられたり、また、女性は「従軍慰安婦」として辱しめられたりしました。

吉田さんは、大日本労務報国会の下関支部動員部長として、朝鮮人強制連行をした自分の経験を語って下さいます。

日本人は隣人に対して何をしたのでしょうか？

なぜ多くの朝鮮・韓国人が日本に住んでいるのか？　どうやって彼ら・彼女らが日本に来たのか？連れて来られたのか？　どのような生活を強いられたのか？

それを日本人は知らなければならないし、その歴史の事実を知って、今日ある在日朝鮮・韓国人に対する差別をやめるために力を尽くさねばならないと思います。

日時　1988年1月15日(祝)2:00～5:00・16日(土)6:00～9:00
場所　カトリック会館6階ホール
主催　吉田清治さん証言会実行委員会
（京都教区指紋と人権を考える会・教理センターほか）
後援　田中健一京都教区司教

▼一日静修に参加しましょう

日時　1月8日(金)10時～
場所　ウィチタ聖ヨゼフ本部修道院
会費　500円　弁当各自持参
指導　リチャード師（御受難会）

▼祈りとミサへのご案内

日時　毎月第2木曜日PM7時～9時
場所　聖ヨゼフ本部修道院
指導　リチャード師（御受難会）
対象　男性信徒
▼詳細は聖ヨゼフ本部修道院（右京区竜安寺御陵の下町1）☎075(462)0754

▼外国人登録法問題とその背景に関する連続公開講座

第3回　1月31日(日)PM3時～5時
在日韓国・朝鮮人社会構成Ⅱ
世代・帰化・国際結婚
朴炳閏氏

第4回　2月28日(日)PM3時～5時
職業・就職・経済活動
徐龍達氏

場所　大阪カトリックセンター
〒541 大阪市東区北浜5－31－1
住友信託ビル7階
※電話での問い合せはご遠慮下さい
受講料　500円(当日会場で受付けします)
事務局　日本聖公会大阪教区センター
申込み・連絡先
在日韓国基督教会館（KCC）
〒544 大阪市生野区中川西2-6-10
☎06(731)6801(当日受付も可)

▼黙想会のご案内

日時　3月12日～13日PM5時～
対象　未婚の女性信徒
指導　佐々木良晴師(イエズス会六甲教会)
場所　カロンデレットの聖ヨゼフ修道院
参加費　3,000円
申し込み　2月29日までにカロンデレット聖ヨゼフ修道院京都修道院（☎075(781)0669 Srグレイス斉藤まで）

▼キリスト教一致のための祈祷週間

愛は恐れをとりのぞく
京都全体集会

日時　1月19日(火)PM7時
場所　河原町教会(三条河原町上ル)
奨励　相馬信夫司教(カトリック名古屋教区)
題　「福音を生きる」
主催　京都キリスト教協議会

編集部から訂正とお詫び

時報128号P3京都南部の50周年報告の中で「こひつじの苑」が「こひつじの死」となっていました。慎しんでお詫び申し上げます。

ナイスは終った、いいえ終ってなんかいいへん。なんで言うたら、なんぼナイスボール投げても、ナイスキャッチしてくれへんだったら、なんにもならへん。なんぼナイスキャッチしてくれたって、ちゃんとナイスボール返してくれへんだら、おもしろあらへん。ナイスはヴェリーナイスになるのかな。

（MT）